令和元年度　太良町立大浦小学校　学校評価結果

資料２

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
ひこばえの心を持ち、強く・かしこく・美しく生きる子どもの育成を図る。	(1) 小中連携による確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ態度の育成を図る。 (2) 人を思いやる豊かな心の育成及びふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 (3) 粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にする児童の育成を図る。 (4) 学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。

達成度

A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である

3　目標・評価

①小中連携による確かな学力の向上と主体的・対話的に学ぶ態度の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	①基礎的、基本的事項の確かな定着 ②家庭学習、家庭生活習慣の定着	①チャレンジタイム・ステッププリント等に取り組むことによって、国語科と算数科における評価テストの知識・理解、技能項目で年間到達度80を上回る児童を80%以上とする。 ②ひこばえがんばりカード等を活用して、学習、生活習慣の定着を図り、「目標達成できた」と答える児童を80%以上とする。	①チャレンジタイムとして、言葉・計算の時間を設定する。内容の検討を定期的に行い、質を高めていく。級外職員も配置し、二人体制で行う。 ②学期に数回実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。	B	①チャレンジタイム等に取り組むことで、基礎・基本の定着を図ることができた。評価テストの到達度は、国語科が75%、算数科が80%であり、算数科は目標達成できたが、国語科の達成がもう少しであり、指導方法の改善や工夫が必要である。 ②「学習、生活習慣に気を付けてできた」と答えた児童は、70%であり、8割達成はできなかった。しかし、自己チェックをしていくことで生活を振り返り改善していこうという意識はみられるようになった。「勉強時間」「テレビ・ゲームの時間」の設定に個人差があったので改善をしていく必要がある。	①国語科に関しては、チャレンジタイム等で扱う内容を精選し、基礎的な力を高められるようにしていく。今後も、国語科・算数科の学力が向上するように、指導方法の改善や工夫していく。学習の時間を設定し、継続して行っていく。 ②児童がより意識して取り組むことができるよう、実施前に重点項目を確実に伝え、実施後には達成率を報告するなど、どのくらい自分ができているかを確認させていく。結果を分析し、保護者へ周知して連携を図る。
	○校内研究の推進	①言語活動を取り入れた国語科学習の工夫と改善 ②自信をもって表現する子どもの育成	①新学習指導要領に対応した学習活動を行うため、国語科を研究教科とし、指導の工夫と改善を図る。 ②授業の中で、児童が明確な根拠がある考えをもつことができるようにする。	①国語科の各単元において、児童につけたい力を検討し、それに応じた言語活動を仕組む。また、全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ②個人で考える時間（アタックタイム）、ペアで考えを交流する時間（ペアタイム）、みんなで考えを交流させる時間（みんなでタイム）を授業の中で確実に取り入れ、根拠をもった考えをもたせるよう仕組むと共に、友達の意見を聞いて考えを深めさせる。	B	①言語活動に指導事項を位置づけることで、教師側も「身に付けさせたい力」が明らかになり、指導に効果的だった。しかし、教材の特性に合った言語活動の設定が難しかった。 ②教師が意図的に話し合い活動を取り入れていくことで、子どもたちにも変容が見られた。必ず自分の意見をもって話し合ったので、自信をもって活動に臨ませることができた。しかし、いつでも「一人→ペア→全員」というスタイルではなく、授業やその時間のねらいに応じて変える必要がある。	①指導事項をどのような言語活動と関連させていくかを吟味する必要がある。その上で、指導目標に楽しいことを内包させることができれば、子どもたちの学習がより主体的になると考える。 ②友だちタイムの質を高め、意見の広がりや深まりを持たせるためには、話し合わせることの意図を明確に持って授業を進めることや、話し合いをさせた後の指導の在り方について吟味していく。
	○教育の資質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICTを活用した授業の推進	・アンケートで「ICT利活用に関わる教材を活用した授業ができた」と答える職員を90%以上にする。	①電子黒板に関わる電子教材を充実させ、担任が活用しやすいように情報を提供する。 ②Skypeを用いた遠隔授業を実施する。	A	①電子黒板に関わる電子教材を充実させ、担任が活用しやすいように情報が提供されていると答えた職員が90%以上であった。 ②Skypeを用いた授業を5年生と6年生で行うことができた。	・本年度は職員用パソコンが新しくなり、来年度は電子黒板のPCが変わる予定である。その際、新しく教材の情報提供を随時行っていきたい。 ・来年度も引き続きSkypeを用いた遠隔授業を行いたい。

②人を思いやる豊かな心の育成とふるさと大浦を誇りに思う心の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	①道徳科の充実 ②教育相談・特別支援教育の充実 ③人権意識の向上	①道徳の授業を充実させる。6月の日曜参観時に全学級でふれあい道徳の授業を行う。 ②毎月子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図る。 ③教育相談週間を設けて、担任が児童と話す機会を設定する。 ④QUアンケートを実施し、その分析を通して対策を考える。 ⑤全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にする心を育てる。	①6月に「ふれあい道徳」の時間を設定し、保護者へ啓発のための学級通信を発行する。 ②毎月第2水曜日に子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図り、支援にあたる。 ③9月の「教育相談週間」に担任と児童一人一人と話す時間を設定し、児童の状況を把握するとともに信頼関係を築く。 ④年2回（6月・12月）QUアンケートを実施し、学力テスト（CRT）とのバッテリー分析を行い、より児童の実態に沿った支援や対策を行う。 ⑤全校朝会で担当者が話をして、人権意識を高められるようにする。8月に平和集会、11月に人権週間、花の鑑賞会(人権集会)を行う。	A	①6月の授業参観では、全学級で道徳に取り組み、学級通信等で保護者へのお知らせも行うことができた。 ②子ども支援会議では、全職員で共通理解を図ることによって、より良い支援体制を作ることができた。 ③9月に教育相談週間を設け、6月のQUアンケートをもとに、担任と児童がゆっくりと話す時間をとり、児童の理解を深めることができた。 ④6・12月のQUアンケートをもとに職員研修を行い、2・3学期の児童への支援を考えることができた。 ⑤本年度は、5月から人権の花に取り組み、10月は花の鑑賞会（人権集会）、12月に人権週間（人権標語・ぽかぽかの木等）に取り組むことができた。	・本年度同様、授業参観を用いて、ふれあい道徳の充実に努める。 ・来年度も毎月、子ども支援会議を行い、全職員で全児童のより良い支援が行えるようにする。 ・QUアンケート、教育相談週間ともに、児童理解にとても有効である。引き続き職員研修等も行い、児童理解に努める。 ・来年度は、人権の花活動はないが、その他の人権活動で、児童の人権意識を高められるように努める。
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止	①毎月心のアンケートを実施する。 ②いじめ未然防止のための職員研修を行う。	①心のアンケートを実施し、いじめの前兆を早期にとらえて迅速に対応にあたる。 ②職員研修を行い、職員のカウンセリングマインドの向上につとめる。	B	①心のアンケートを活用し、児童の訴えを聞き取り対応することができた。心のポストも有効に活用できた。今後、いじめ未然防止の為の指導（授業）を行う必要がある。 ②生徒指導担当を中心に、いじめ防止の研修を行うことができた。	①次年度は、心のアンケートの様式変更を検討している。周囲の児童からも情報を得られるようにしていく。いじめを未然に防ぐ為の指導（授業）をSCと連携しながら実施したい。 ②次年度も引き続き研修を行っていく。
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	①ふるさと大浦や佐賀に愛着を持っていると回答する児童を80%以上にする。 ②アンケートで、「郷土の資源（人的・物的）を生かした学習活動を年間2回以上行った」と答える職員を90%以上にする。	①生活科や総合的な学習の時間等において郷土の資源（人的・物的）を生かした体験活動や表現活動を計画・実践する。 ②各担任が、地域コーディネーターと連絡・調整して外部や地域ボランティアと連携した学習活動を計画・実践する。	B	①大浦や佐賀に愛着を持っている児童は、80%以上だった。地域の方と協力した活動を行うことで、愛着がさらに高まったが、児童発信の活動が少なかった。 ②郷土の資源を生かした授業を年間2回以上行った職員も、90%以上に達したが、児童に探求心をどのように持たせるかが課題である。	①郷土の資源（人的・物的）を生かした体験活動や表現活動を計画する中で、児童の興味関心に重点を置き、何ができるかを考えさせる。 ②児童に、興味をもったことに対してどのように探求していくかを考えさせ、それを実行できる学習活動を進めていく。
	○生徒指導	①安全・防災意識の向上 ②生活指導の徹底	①関係機関と連携して安全・防災意識が高まるような効果的な安全指導、避難訓練を計画的に行う。 ②職員の共通理解による指導を徹底する。 ・アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言掃除ができる」児童を80%以上にする。	①安全指導や避難訓練についてプロジェクトで話し合い、児童の安全・防災意識が高まるような活動内容を工夫して計画的に行う。 ②各教室、校内にめあてを掲示する。 ・全校朝会、集会、放送等でよい行いを紹介し意識付けをする。 ・全職員共通理解のもとで、見かけたらその場で指導を行う。	A	①避難訓練は、避難経路を素早く誘導することができたが、訓練の内容を見直す必要がある。 ②アンケートで、「大きな声であいさつ」、「正しい廊下歩行」、「無言掃除」をよくあてはまる、大体あてはまると答えた児童は合わせて、それぞ100%、100%、95%であった。「各教室、校内にめあてを掲示する。全職員共通理解のもとで、見かけたらその場で指導を行った」と答えた職員が100%であった。「よい行いを紹介する」は来年度の課題である。	①避難訓練を、1学期不審者対応訓練、2学期を火災避難訓練、3学期を地震避難訓練の3回に分ける。 ②全校朝会、集会、放送等で児童のよい行いを紹介し意識付けをする。学校外の地域の中でも気持ちの良い挨拶ができるように全校朝会、集会、学級等で指導して意識づけをしていく。友達を呼ぶ際に「さん」を付けて呼ぶことを今後も継続して指導する。

③粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にする児童の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	①望ましい生活習慣の形成 ②体力づくりの推進	①ひこばえがんばりカードを学期ごとに実施し、生活習慣の定着と家庭との連携を行う。 ②学期ごとの体育的な行事等において体力向上の推進を行う。	①ひこばえがんばりカードを活用し、「早寝早起き朝ごはん」の基本的生活習慣の定着をめざして、指導（声かけ・コメント）する。 ②各行事で、自分なりのめあてをもたせ、その達成をめざして努力することを促す。	B	①学期に数回実施したことで、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して取り組むことができた。 ②マラソンカードを必ず1枚終わらせるという目標を持たせることで、見通しを持った取り組みができた。また、昨年よりも取り組み期間を長くすることで、完走者も増えた。	①②他の体育行事でも、めあてカードやふりかえりカードを共通化することで、全校的な意識の向上を図りたい。また、スポーツチャレンジを年間を通した活動にできるように配慮したい。
	○特別活動の充実	主体的に取り組む活動の充実	①児童が活躍できる学校行事や集会等を設定する。 ②表現力・思考力が発揮できる「コンクールへ参加した」と答える児童を80%以上にする。	①児童集会の中で、児童のアイデアを取り入れた委員会紹介を行う。学期はじめに活動の見通しを持たせ、学期末には活動の振り返りや発表を行う。 ②各種コンクールを児童、保護者へ適宜紹介する。	B	①児童集会では、2～3委員会ずつ委員会紹介を行った。活動の計画やのふりかえりについては年間を通じて、個人の委員会ノートを作成し、活用した。 ②夏休みの作品募集やヤング川柳など、コンクールの紹介や取り組みなどを行っていたが、アンケートの結果から考えると、児童の主体性と結びついていないのではないかと思われる。	①児童集会における各委員会の発表内容や進行を、各委員会にゆだねることで、活動の工夫や活発な広報活動を促したい。 ②入賞者は表彰だけでなく、適切な期間、作品を校内に掲示したり、名前を貼りだしたりするなどして、意欲の喚起を図りたい。

④学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標の周知、徹底	・重点目標を策定して保護者、児童、教職員への周知徹底度を80%以上とする。	・学校教育目標について、学校だよりやPTA総会で保護者に説明する。 ・学校教育目標について、児童に全校朝会等で説明する。 ・学校教育目標、今年度の重点目標と職員の業績評価、学級目標等との関連付けを図り、学校運営力を向上させる。	A	・アンケートで、「学校の目標を知っている」と答えた児童が100%、保護者は99%であった。 全校朝会、学校だよりを初めとして学校目標を意識して知らせてきたことによって、児童・保護者に周知徹底できた。	・学校教育目標、今年度の重点目標について職員自らが業績評価、学級目標等と関連付けを図り、学校運営力を向上させられるように、人事評価とも関係付けながら取り組んでいく必要がある。
	○学校運営力の向上	①ブロック制による学年経営 ②プロジェクト制による校務運営 ③各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	①アンケートで、「取組（地域連携やPTA行事等）について情報を共有し、必要に応じて管理職への『報・連・相』を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答える職員を80%以上にする。 ②アンケートで、「プロジェクトの会議決定を基本とした取組ができた」と答える職員を80%以上にする。 ③アンケートで、「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員を80%以上にする。	①ブロック主任、各部員は年間を通じて、日常的に情報の共有を行う。特にブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ②取組が主体的・組織的に行われ、児童にとって有効なものとなるよう、プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ③各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	A	①アンケートで、「取組について情報を共有し、必要に応じて管理職への『報・連・相』を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答えた職員が100%であった。各ブロック主任は計画的に教育活動が行われるように進捗状況の把握を行うことができた。 ②アンケートで「プロジェクトの会議決定を基本とした取組ができた」と答えた職員が100%であった。 ③アンケートで「担当分野の内容改善を進んで行った」と答えた職員が100%であった。	・ブロック制、プロジェクト制等は今後も学校運営の要であると考える。職員のキャリアステージを意識した、個々の目標設定と意図的・計画的な取組が推進されるよう、運営会議や各リーダーのチェック機能が発揮されることが必要である。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①長時間労働の解消 ② 業務改善と環境整備 ③業務移管等による取組	①定時退勤実施率100%を目指す。 ② 行事や会議の効率化、校務分掌の平準化、校務サーバー等の利活用による効率化を心がけることができたと答える職員を80%以上にする。 ③学校集金の処理が効率よくなったと答える職員を90%以上にする。	① 毎週金曜日を「定時退勤日」として定めて周知徹底を図る。また、職員の在勤時間を正確に把握して取組の充実を図る。 ②年度末作成の「引き継ぎ書」、校務サーバー、毎月開催のプロジェクト会議を有効活用して、各担当者が効率的な業務を遂行できるようにする。 ③学校集金の事務職への移管により、事務処理の効率化を図る。	B	①毎週金曜日を定時退勤日として設定し、午後6時までには退勤するよう呼びかけたが、アンケートで「定時退勤日が実施できた」と答えた職員は45%だった。4月～1月までの職員の超過勤務時間の平均は31.4時間であり45時間を超える職員はいなかった。 ②行事や会議の効率化、校務分掌の平準化、校務サーバー等の利活用による効率化を心がけることができたと答えた職員が89%であった。 ③学校集金の処理が効率よくなったと答えた職員が94%であった。	・一部の業務が少なくなって他の職員へのしわ寄せが行くようでは、本来の業務改善とは言えない。新学習指導要領の完全実施となる来年度は今年度の反省も踏まえながらカリキュラムマネジメントを行い、業務改善、環境整備を行っていく必要がある。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

① **「小中連携による確かな学力の向上と主体的・対話的に学ぶ態度の育成」**については基礎的・基本的内容の定着のための方策について全校で一致した取り組みができ一定の成果を挙げることができた。言語活動の工夫や話し合いのさせ方などについて授業力の向上に努めていくと共に、今年度明らかになった課題を解決すべく中学校と連携しながら実践を進めていく。

② **「人を思いやる豊かな心の育成とふるさと大浦を誇りに思う心の育成」**については、今年度も郷土の人的・物的資源を生かした多様な体験活動を設定することができた。体験を児童の学びとどう結びつけるか今後吟味していきたい。道徳科の充実と同時に日々の学習や活動の中で豊かな心を育てていくよう取り組む必要がある。また、教育相談に関することやいじめ問題への対処などについては今後もチーム対応をしていく。

③ **「粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にする児童の育成」**については望ましい生活習慣の定着に向けて取り組むことができた。引き続き、ひこばえカード等を活用し改善を目指す。体育的行事では児童にめあてをしっかりと持たせ、振り返りもさせながら意識を向上させ、健やかな体つくりを目指していきたい。

④ **「学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実」**については学校教育目標の周知・徹底、そして、ブロック制、プロジェクト制による学校運営組織体制の整備とPDCAサイクルに沿った取組が定着してきた。今後更に、教職員一人ひとりの業務改善と働き方改革への意識向上を目指したい。効率のよい業務改善と環境整備の方策を開拓し、さまざまなマネジメント機能を生かしつつ、信頼される学校づくり、学校力向上を目指していかなければならない。

●は共通評価項目、○は独自評価項目